

「瓦版」



2022. July. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

NO.11

カンボジアの日本 ODA プロジェクト

「援助」というとインフラ整備を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、日本の ODA にはその地域に生きる人々に対する支援の枠組みがあります。それが「草の根・人間の安全保障無償資金協力」です。“人間の安全保障の理念を踏まえ、発展途上国における経済社会開発を目的とし、地域住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するもの”で、NGO や地方公共団体、教育機関、医療機関などの非営利団体に対して行われる援助です。カンボジアでは、1991 年から 2020 年までに 650 件の支援が行われています。

～生命の誕生に寄り添う～

モンドルキリ州カエウセイマー郡メーモン地区は首都プノンペンから約 400 km 離れた山岳地帯に位置し、住民の多くは独自の言語と宗教を有するプノン族だ。モンドルキリ保健センターは 1986 年にメーモン地区に設立された。2019 年 12 月、適切な医療環境を整備し、公的医療サービスの質の改善を図るため、日本政府は同保健センターに新たに分娩棟 1 棟 8 室および待合スペースを建設した。現在、同保健センターでは 1 年に約 100 人の赤ちゃんが誕生している。



～子どもたちの成長に寄り添う～



モンドルキリ州にあるメーモン小学校は老朽化が進み、雨天時には雨漏りがひどく、授業の実施が困難だった。そのため 2018 年 11 月に、安全かつ快適な学習環境の整備を目的として、日本政府はコンクリート製校舎 1 棟 3 室、雨水タンク等を建設し、児童用の机と椅子 60 セット、ホワイトボード 3 台等を用意した。木造校舎の時は毎年修理が必要だったが、コンクリート製になったことで行政の経済面の負担が軽減された。

2020 年 11 月にはメーモン中学校にも同様の支援を行った。現在では、同中学校は高校としての機能を持ち始めている。街へ行かずとも高校の授業を受け、卒業資格を得られることは、この地域の子供たちにとって将来に関わる大切なことなのだ。

～公衆衛生と健康の源・「水」をつくる～

カンボット州カンボット市では 1950 年に配給水網を含む上水道システムが構築されたが内戦や整備不足、老朽化等に加え、同市の一部地下水が飲料に適さないことから、安定した水源をもつ上水道施設の拡張が急務となっていた。そこで日本政府はカンボジアへの無償支援の一環として 2015 年 7 月から 2018 年 8 月にカンボット上水道拡張事業を行った。これにより上水道供給量は 2 倍に増え、安定した給水サービスの提供が行えるようになり、安全な水へのアクセス率が向上し、住民の生活環境が向上した。



～大地の恵みをいただく営み・農業を支える～

トンレサップ湖周辺地域は年間降水量が多く水資源が豊富なため、カンボジアの米どころとして稲作が盛んである。しかし現存する灌漑施設の多くは老朽化により十分に機能していないものが多い。このため、日本政府は有償資金協力で灌漑施設を改修・整備することを決定した。一方で、施設を建設するだけでなく、



水資源気象庁が主体となって流域水資源管理、灌漑整備事業の支援、灌漑施設の運営・維持管理体制の強化等の営農指導を行い、農業生産増加を図り、同地区農民の生計向上に貢献している。

これにより米の収穫高は 1.5～2 倍に増え、以前は一期作だったのが二期作、場所によっては三期作ができるようになった。

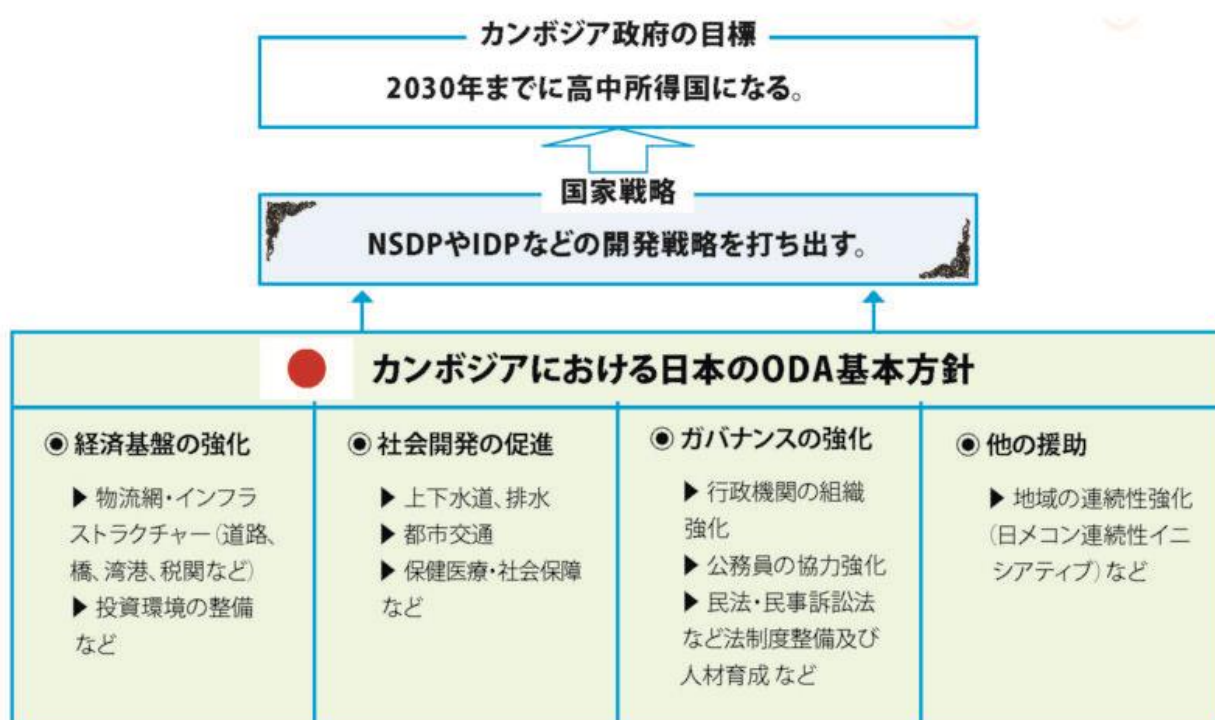
～人々の営みに寄り添う～

近年、カンボジアの経済は急速に発展しています。この急速な経済発展により、2016 年 7 月以降、カンボジアは低所得国から低中所得国へと引き上げられました。カンボジア政府は 2030 年までに上位中所得国の地位を獲得することを目標に、これまでの復興、開発、そして現在の発展を継続的に持続させるため、「国家戦略開発計画（NSDP）」や「産業開発政策（IDP）」などの政策を策定しています。

これまで日本はその時代時代に、成長過程に応じてカンボジア政府が直面しているあらゆる開発課題を克服すべく、ODA 支援を行ってきました。

カンボジア政府が定めた NSDP と IDP を元に 2030 年の新しい経済開発目標達成を目指すカンボジア開発のために、日本の現在の ODA はどんな役割を担っているのでしょうか。

● カンボジアにおける日本のODA基本方針の構図



参考：日本外務省, Foreign Policy, Official Development Assistance (ODA), ODA by Region East Asia, Cambodia

みちのく
陸奥あれこれ…



カメイ美術館

仙台市青葉区五橋 1-1-23

TEL 022-264-6543 <http://www.kameimuseum.or.jp>

■開館時間 11:00～16:00 (入館は 15:30 まで)

■休館日 毎週月曜日(祝日は開館) / 年末年始

臨時休館 7月27日(水)～8月1日(月)

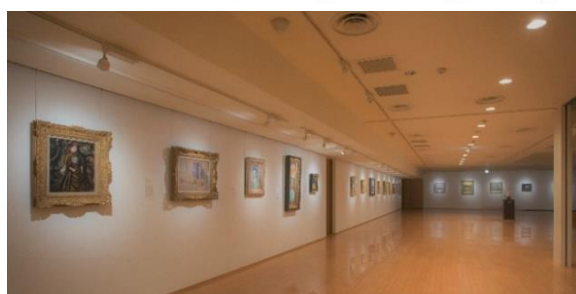
■入館料 一般 300 円 / 65 歳以上高校生以下 無料

絵画特別展開催期間 8月2日(火)～10月2日(日)

一般 500 円、65 歳以上、中学生以下無料

カメイ株式会社の創業 90 周年を記念して設立された財団法人(現:公益財団法人)カメイ社会教育振興財団の事業の一環として、文化及び芸術振興に寄与し、地域に貢献することを目的に開館したカメイ美術館では「絵画・彫刻」「世界の蝶」「伝統こけし」の3つの展示をご覧ください。

【絵画】



◀ 佐伯祐三《パリ風景》1925 年

カメイ株式会社が長年にわたり収集してきた「カメイコレクション」を展示する常設展を中心に、特別展・企画展も開催しています。「カメイコレクション」は藤田嗣治、梅原龍三郎、安井曾太郎、佐伯祐三ら近・現代の日本美術を代表する作家、20世紀初頭の絵画運動で活躍したモーリス・ド・ヴラマンクの作品、東北ゆかりの作家や現在、活躍中の作家の作品を展示しております。

【世界の蝶 & 甲虫】



▲ ヘレナモルフォ モルフォチョウ類で最も美しいとされる蝶

財団設立代表者 亀井文蔵氏が60年以上にわたって収集した蝶の標本約4,000種14,000頭を展示しています。日本をはじめアジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカなど世界各国の蝶のほか、ヘラクレスオオカブトなどの甲虫類の標本約1,300頭も展示しています。ペルーのみに分布するヘレナモルフォや、ジャマイカ特産の蝶に限られた地域に生息しているホメルスアゲハなどの希少な標本も見られます。



【こけし】

こけしは、東北地方固有のもので、ひとつひとつがその地方の独特の特徴をかねそなえています。当館では当財団理事 亀井昭伍氏が収集してきたこけしを中心に公開しています。戦前(大正時代から昭和10年代)の有名工人の古作こけしを中心にその伝統を継承する工人達の秀作を加えたコレクションです。



明治30年頃から昭和初期作のこけし達 ▶



▲ おかっぱ頭のこけし達